



森のなかま

2024年 5月号

NO. 191 (継続336号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

【森林癒やし部会主催】 癒やし体験研修会

日時：令和6年2月17日(土) 10:00~15:30

場所：やどりき水源林

参加者：11名 講師 L藤井⑭、若林⑦、宮下⑩、真貝⑪

受講者 草野⑧、安井⑫、笠原⑭、藤井世⑭、久慈⑯、久次米⑯、小国⑰

(記 藤井 敏彦⑭、写真 宮下 修一⑩)

一日曇り空で結構寒い一日でしたが幸いに雨は無く、体験研修会が令和6年2月17日にやどりき水源林で行われました。参加者は、講師4名・受講者7名。今回の研修会では、ベテランから初心者まで幅の広い受講者となったため、癒やしの技術(知識と実践力)を再確認・高める内容に加え、五感で感じる感性体験を重視し行いました。

プログラムは、最初にスケジュール説明、準備体操を行った後に、癒やしの基本的知識を説明する座学(部会作成のテキストを配布)として癒やし体験の重要ポイントの説明を行いました。その後に4種の体験会(樹冠の揺らぎ・ハンモック・木伝導・呼吸法)を行いました。道具は、集会棟の2階に保管されている置き場所を確認後にそれらを広場に移動。その中でハンモックはトイレ前の広場スペースに設置しました。体験会は、講師毎に参加者2~3名に分かれそれぞれ4種の体験をじっくり時間掛けて実施し、個別の癒やし体験のベースとなる知識に加え実践力を養う事を重視して行われました。



座学の様子



寝転がり体験

樹冠の揺らぎ体験は、Bコースの延寿の森中の平坦な歩道広場でブルーシートとパフマットに寝転がり体験です。これは寝転がることにより、普段の視線と違う地面から空に伸びる木々の幹と梢の姿、それらがそよ風にゆったり揺れる景色、転がった時に感ずる土地の匂い、背中に感ずる大地の感触等、五感(視覚・聴覚・嗅覚・触覚)を通して感ずる体験です。ハンモック体験は、準備されたハンモックに安全に横たわる手順を確認後、ハンモックの中で揺れる無重力的癒やしを感ずる体験を行いました。木伝導体験は、滝郷の滝のしぶきを感じた後(主に春から秋に実施)、木伝導を通して小川の流

れる音を聞き取ることで心地よさを感じ気持ちがりフレッシュされる体験を行いました。呼吸法は、森林安息の基本となります。場所は、景観に優れた休息棟手前の広場にて座観の方法、そこから広がるランドスケープを見る事により、季節毎の混交林の色彩の変化を捉え気持ちをゆったりさせる方法と腹式呼吸の実践を行いました。

昼食時には癒やし体験一つであるハーブティーを試飲する事で嗅覚・味覚からの楽しさと心地よさを感じて貰いました。この日は少し寒かったのでホットなハーブティーを飲む



木伝導

時のリフレッシュ効果は格別な体験となりました。

午後は、参加者の要望を募った結果、4 種の体験の中で、ハンモックの設置体験と呼吸法の深掘りを行なう事となりました。ハンモックの設置体験は、樹木の中に設置する吊り下げハンモックの設置方法を再度実施しました。設置のポイントは、参加者の皆さんに安全で素早くかつしっかり樹木にロープを絡めて固定する手法を何度も繰返し実践して頂きました。自立型のハンモックもありますが、横たわった感触は樹間の吊り下げハンモックの方が心地よいとの感想が出されました。呼吸法は、腹部の動きを意識しゆっくり行う呼吸法で



釣り下げハンモックの設置



休憩棟前での座観

す。最初に解説資料（腹式呼吸によるリラックス効果）を説明した後、具体的に腹式呼吸の実践として、4 秒位掛けて鼻から吸い込み、4 秒ぐらい溜め、そして 8 秒程度掛けて出来るだけゆっくり吐き出す呼吸を行いました。これらを 10 回程度繰返します。ひと通りの説明後に、森案等の活動を想定し参加者が講師役を行う実践体験をして頂きました。

最後は、集会棟に戻り、全体のまとめとして各自の感想を述べて貰う事とアンケート記入をお願い・回収し完了しました。アンケート結果は、概ね好評でした。感想例は、“気持ちよく体験できた”、“研修テキストをもっと勉強したい”、“ハンモック設置方法と意識して呼吸を行うことがリラックスに効果があることがわかった”等、有り難い感想を頂きました。

参加者募集

2024 年 6 月 1 日(土) 森の案内人☆特別企画 やどりきの森へ行こう！

第 1 回テーマ：緑したたる森で癒やし体験

～林道歩きながらセラピー&リラックス～

(申込締切：2024 年 5 月 18 日(土))

やどりき水源林の林道を歩きながら、観る・聴く・触れる・嗅ぐ・味わうの五感で自然を感じながら森を散策します。新しい森での過ごし方を体験してください。

場所：やどりき水源林（足柄上郡松田町寄）

費用：無料（要申込）

集合：小田急小田原線 新松田駅北口 8:30

解散：やどりき水源林ゲート 14:30 発 →

15:10 頃 新松田駅着 解散

※新松田駅～やどりき水源林ゲート間はバスを利用します。

(バス代は各自負担：片道 690 円)

定員：30 名 (先着順)

※申し込み要領はパンフレット(こちら)をご参照ください。

※web からも申込み可能です。申込み



《やどりき事業部特別企画》 2023 年度第 3 回『やどりきの森へ行こう！』
【水源林のミツマタ群生鑑賞：早春に咲くミツマタ観察で春を感じよう】

日時：令和 6 年 3 月 16 日（土）9：30～14：30 快晴

場所：やどりき水源林

参加者：35 名

インストラクター：L 水口⑨、SL 波多野⑨、(企画事務) 古舘⑬、上宮田⑪、國弘⑭、
藤井⑭、鈴木⑭、内田⑰、藤田⑰

(記・写真 波多野 慶⑨)

快晴で春到来を感じさせる陽気の中、やどりき水源林恒例「ミツマタ群生鑑賞」が開催されました。

参加者は 35 名、6 班に分かれ「林道コース」から「平成 20・21 年度成長の森ミツマタ群生地」までを散策、芽吹き始めた木々や草花、動き出した昆虫達・賑やかな鳥の声に囲まれて、始終リラックスした雰囲気の水源地散策となりました。

道中、各班の担当インストラクターによる各見所の解説、「枕状溶岩」「ムササビ・モモンガ」の説明が行われ、熱心に聞き入るお客様の姿が印象的でした。

そしていよいよ、ミツマタ群生地に到着。下見時は 2～3 分咲だったミツマタの花も、今日は満開！可愛い花と芳香がお客様を迎えてくれました。



その後昼食を挟んで、午後のプログラム「やどりき水源林の野生動物の説明」、「滝郷の滝」「B コース巨木林」「A コース終点付近」の散策が行われました。

回収された「お客様のアンケート」の結果は良好で、「楽しかった」「また参加したい」等、嬉しいお声を多数いただくことができました。

2024 年度も様々な企画をご用意し、皆様の水源林へのお越しをお待ちいたしております。



やどりきの森へ行こう

季節に沿ったテーマを設け、やどりき水源林をご案内いたします。

(申込み方法等詳細は「[森の案内人パンフレット](#)」の 1 ページ目中央をご覧ください)

活動短信

今回の掲載はR5年12月20日からR6年2月17日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

5月(皐月)(旧暦4月卯月)の

二十四節気と雑節、鳥こよみ

二十四節気:立夏5/5 雑節:八十八夜5/1

立春を起点として88日目。この日に摘んだお茶は上等品で、この日にお茶を飲むと長生きするそうですよ!

鳥こよみ: ホオジロが電線などで囀る季節。複雑で独特な節回しは「一筆啓上仕候」等聞きなされていますが私には「チョッピリ ちよっと チョッピリ」と聞こえます…🌸

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付:令和x年x月x日(曜日) 時間 天気
場 場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)
参 参加者 人数
県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ
財 (公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師
ス 例 小田原市森林組合XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様
イ インストラクター① (○数字:期) 研:研修枠
以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)
活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします m(_)_m

◆ 第16回県民参加の森林づくり 間伐

日 令和5年12月20日(水) 8:30~13:30 曇り
場 塚原水源林
参 37名(大人37名)
財 古舘様 藤本様
看 佃様
ス 南足柄市森林組合様
もりかみ協議会様
イ L滝澤⑤、柏倉④、佐藤⑤、山崎⑦、齋藤⑧、
松本⑩、大橋⑩、徳岡⑩、東⑫、江上⑬、牧石⑭、
水野⑭、黒川⑭、小林⑯、中野⑰、中鉢⑰

12月にしては暖かい日。年末の平日であったが37名の方々に参加頂いた。当日はいつもカートカン飲料を提供くださっているもりかみ協議会様も、カートカン飲料のPR動画撮影のために参加。安全目標は「周囲の確認」で実施した。

塚原水源林の21年生ヒノキ林での間伐。当初よりだいぶ間伐が進み、森林塾により高い位置まで枝打ちされた

所もあるため、かなり隙間ができたとはいえ、作業場所までの道りが遠くなったり、急斜面であったりなど大変なエリアが残っている。各班2~3のグループに分かれて実施し、合計37本間伐した。間伐対象の木の中でも太目の木にトライされたグループが多かった。

12月最後の活動ということで、オリエンテーションでは楽しいお正月が迎えられるよう安全にと伝えられたが、鋸の刃を軍手着用の左人差し指に当て切傷した方がでた。刃の進む先に手を置かないと知っているものの、つい枝払いの際に置いてしまったとのこと。看護師の手当ての後に縫合した方が良いとなり、受診のため財団の車で駅まで送られた。

閉会の際に財団藤本様より、軍手では刃で傷つけるリスクが大きいので複数回参加される方は皮手袋の用意を勧める、また怪我をした場合は保険適用の証明をするためにも活動中に財団に知らせて欲しい旨が参加者に伝えられた。(記 滝澤 洋子⑤)

◆ 第18回 県民参加の森林づくり 竹林整備

日 令和6年1月27日(土) 09:00~13:00、快晴
場 伊勢原市子易
参 60名
財 藤本様、倉野様
看 青木様
町 伊勢原市農業振興課 神戸様、鈴木様
ス 県森林組合連合会 岡本様
イ L上宮田⑪、山下⑪、藤代⑬、岩田⑭、西村⑯、
祐谷⑯、内田⑰、広浜⑰、文原⑰、松原⑰、野口⑰

丹沢の山々もスッキリと望める快晴の下、大山に向かう登山者で賑わう小田急伊勢原市駅前に集合し、3台のバスに分乗して大山の麓のオリエンテーション場所へ移動。

オリエンテーションのために使用許可いただいた地元名産の富有の畑の中で、伊勢原市の方から「今回の作業を依頼したのは鳥獣による農作物被害を抑えるため獣が潜む場所になりやすい藪の除去が目的であること」と、「鳥獣被害の内訳は年間1千万円超の被害額で、『シカ4割、イノシシ3割、クマ2割』であること」を伺いましたが、クマによる被害の割合の大きさは少々驚きでした。

その後、作業道具を参加者の皆様にお渡しし、山道を10分ほどの所にある作業場所へ移動。作業場所の状況は班受け持ちエリアごとにまちまちでしたが、私が担当した4班のエリアは、竹林のなかまに有名な大山こまの材料となるミズキが点在する場所で、半分は1



年前に県民参加活動で伐採した跡であちらこちらから2～3m程度の新しい竹が生えて来たところ、その奥半分は全くの手つかずの鬱蒼とした竹林という場所でした。作業方法や伐倒後の材の集積方法等の説明の後、今回の安全目標である「近接作業注意」を踏まえて、担当エリア全体に分散して作業を開始していただきました。今回初参加の方もいらっしゃいましたが、皆さんチームワークも良くテキパキと作業は進み、作業開始前に「あの竹林の奥にある沢までたどり着けると良いですね」と言っていた所まで伐採が進み、作業開始前とは打って変わり、見通しも良い、スッキリとした場所になりました。作業後に参加者の方へ感想を伺ったところ、「今まででいちばん充実した作業をする事ができました」という方もおられました。集合した頃は少し寒かったのですが、作業が始まる頃には日だまりのぬくもりも感じられ風もあまりなく、作業には快適な気温になり、参加者の方には楽しいひとときを過ごしていただけたのでは と思います。

作業終了後は、オリエンテーションを行った柿畑まで戻り、閉会式を終え昼食をとった後、バスで伊勢原駅まで移動し解散となりました。

(記 西村 充弘⑮、写真 上宮田 幸恵⑪)

◆ かながわ森林インストラクターの会新年会

日 令和6年1月27日(土) 15:00～17:00 曇り

場 センチュリー相模大野7階くちかほう

参 37名 井出①、藤本⑤、瀧澤⑤、山崎⑦、久保⑧、野牛⑧、内野⑨、高橋⑨、水口⑨、村井⑨、湯浅⑪、徳岡⑪、上宮田⑪、真貝⑪、石川⑫、宮下⑫、山崎⑫、岩田⑭、國弘⑭、黒川⑭、藤井⑭、水野⑭、末原⑮、飛田⑮、森⑮、岡村⑯、久次米⑯、小林⑯、内田⑰、高谷⑰、田島⑰、中鉢⑰、鶴田⑰、野口⑰、広浜⑰、森本⑰、柳澤⑰

コロナ禍が明けて前回 R2. 1. 12 以来の久しぶりの新年会が新たな形式で相模大野(センチュリー相模大野7階「くちかほう」)で開催され、黒川敏史理事長、小林照夫副理事長含め総勢37名で開催されました。

司会は11期のマドンナこと上宮田さん。当日午前中に伊勢原での県民参加活動対応をしてきたことを感じさせないパワフルさで会は円滑に進み、参加者どうしが打ち解けてきた頃に17期9名の自己紹介が始まりました。17期で一番背が高い鶴田圭二さんが身長を191cmと公表したら、それに続く17期生も身長を発表することとなりました。なお体重を公表したのは高谷秀之さんだけでした(笑)。

その後、各
部会長等から



久しぶりにおこなわれた新年の集いへの思いや抱負・決意等を述べていただき、17期生への訓示、激励のスピーチもいただくことができました。食事はバイキング形式で和洋様々な料理が提供されました。料理はどれも適温で提供されていておいしかったのはもちろんのこと、スイーツの充実ぶりに個人的には感動し、わらび餅、ティラミス、いちご大福など食べすぎてしまいました。予定の時間はあっという間に過ぎましたが、久しぶりの交流と新しい試みに皆様満足そうに会場を後にいたしました。名残惜しい16名は駅近くのカラオケ店へと移動。先輩方の美声に17期生は圧倒の連続。その模様の詳細は残念ながら紙面の都合で割愛させていただきます。

(記 田島 聖一郎⑰、写真 末原 興一⑮)



◆ ネットワーク活動

令和5年度 緑のレンジャー講座 第9回

日 令和6年2月3日(土) 10:00～12:00 晴れ

場 鎌倉中央公園管理事務所2階研修室

参 大人16名

ス (公財) 鎌倉市公園協会 千田様、後藤様、西野様

他 NPO 法人鎌倉みどりのレンジャー

島田様、小池様、他2名

男性ボラ・ヤローズ 中山様

イ L女川⑨、國弘⑭

公益財団法人鎌倉市公園協会による公園緑地の維持・保全に関する標記体験講座の最終回が実施されました。

1. インストラクターによるまとめの講義

緑の保全のボランティアは自然から安らぎを得る、環境改善に貢献する、生きがいを求めるなどが動機になっており、森林や里山等の整備・保全と森林や自然等の教育・学習・普及啓発の活動をしている人が多くいます。

鎌倉市の森林の保全の考え方には環境保全型を基本として、ふれあい利活用型、防災型、景観・歴史的風土保全型があります。宅地開発の進んだ鎌倉市ですが、開発前の豊かな自然の痕跡が随所に残っており、保全が望まれます。

緑の保全活動は目的の確認と植生等の調査による実施計画の立案、





植栽や間伐等の活動と知識・技術の習得の実行、活動計画と実施結果に対する評価、問題点の改善というPDCAサイクルによる遂行が必要です。

今後は環境変化による災害の激化や生態系の攪乱などにより、災害による倒木や折損、害虫被害による立ち枯れ、樹木の老齢化などが課題となります。温室効果ガスの削減の一端を森林が担うために、新たな緑の面積の増加や老木から若木への更新が必要になり、緑のボランティア活動のさらなる拡大が求められます。

鎌倉市の森林の保全を支えるために「緑のレンジャー」に期待し、活動の継続・発展のために子ども達への普及啓発を求めますとの言葉を送り講義を終了しました。

2. 島田様による NPO 法人鎌倉みどりのレンジャーの紹介

この法人は当講座の卒業生が緑の保全活動を希望する場合の受け皿です。緑の整備・保全活動、樹木・植生調査、国指定史跡の緑地整備、切り通しの巡回、講習会・研修会の実施、その他多くの活動メニューが紹介されました。

安全な活動のために刈払機やチェーンソーの安全教育への補助や保険の加入などきめ細かい説明もされました。



女性のメンバーから女性の加入も呼びかけられ、熱心に活動していることが良くわかりました。

3. 中山様による「男性ボラ・ヤローズ」の紹介

高齢者宅の住居の手入れや障害者介護の支援等を行っているボランティア団体です。当講習会の卒業生は庭の整備等で活躍をしているとお話でした。良い仲間づくりの場となっていることが伝わりました。

4. 公益財団法人鎌倉市公園協会による公益財団法人鎌倉風致保存会の紹介

寺社や史跡地での見学会や緑の保全、自然観察等を行っている会の紹介がありました。受講生から各団体への参加方法等について熱心に質問があり、今後の活躍が期待されます。明るい雰囲気です。講義は終了しました。(記・写真 國弘 明子⑭)

◆ 第20回 県民参加の森林づくり 除伐

日 令和6年2月17日(土) 8:30~14:00 曇り

場 相模原市南区大野台(木もれびの森)

参 103名(うち子ども6名)

財 藤本様、倉野様

ス 相模原市みどり環境課 宮野課長、児島様、原田様、佐藤様

相模原まちみどり公社 山崎様

NPO 木もれびの森 平野様

イ L 柏倉④、佐藤⑤、小野⑦、波多野⑨、内野⑨、

山下⑪、湯浅⑪、西出⑫、松石⑬、大谷⑰、鈴木⑰、文原⑰、藤田⑰、森本⑰、渡邊⑰、田島⑰

令和5年度最後の県民参加活動が相模原市南区大野台の木もれびの森でおこなわれ、子ども6名を含む103名が参加されました。木もれびの森は相模原市の近郊緑地特別保全地区に指定されている落葉広葉樹のコナラ、クスギを主とした平坦な雑木林です。ボランティア4団体が定期的に活動しています(そのうち2団体から参加者あり)。

曇天でやや肌寒い天候のもと準備体操をおこない、5班に分かれ、伐採予定地に移動しました。木の周囲長20センチ以上は残すこと、割竹で囲われた場所は希少種があるので切らないこと、周囲確認を徹底することに注意し除伐・ササ刈り作業が始まりました。



直径2センチ程度とはいえ生木で切りにくかったり、ツタの絡みが激しく大鎌での作業は難航していましたが、枝打鋸に切り替えてペースが上がり参加者の多くが一心不乱に除伐をしました。またベテランと初心者が連携して玉切りや枝払い、枯れ木の片付けをおこないました。

全体的に参加者の年齢層が若かったこともあり、みるみるうちに笹や下草の除伐が進み、約2時間の作業が終わったときには周囲長20センチ以上の木を残すのみとなりました。今年5月に植栽がおこなわれるとのこと、その後の風景がとても楽しみに感じられました。

作業と昼食後、会場を後にする道中、掲示のある草木をしたためてきました。イヌシデ、ササバギンラン、ヤマガキ、ハリギリなどです。印象的だったのはハリギリです。樹皮がやや橙色でブロック状に割れて、樹高も10メートルほどあって堂々とした風格の独特の木でした。



(記 田島 聖一郎⑰、写真 柏倉 紘④)

やどりき水源林ミニガイド

「やどりき森の案内人」

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。やどりき水源林ゲート前までお越しください。

「やどりき水源林ニュース」

4月号は「ミツマタ」です！



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

河西 静夫

Mail: skasai0618@gmail.com

Tel : 090-1227-6209

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子

Mail: muneko-sakura@outlook.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】河西 静夫

Mail: skasai0618@gmail.com

【別冊】小国 一男

Mail: ka-oguni@ab.auone-net.jp

◇ 編集後記 ◇

★ 4月の「かながわ県のたより」やみどり財団発行の「ミドリ」春号には、成長の森の記事が大きく掲載されていました。5月、無花粉スギ、ヒノキの研究林では、カメムシ対策や成長促進作業が始まります。育苗農家も苗を丁寧に育てて出荷します。苗を植えて、大きく育てて整備する。今年も無限ループの本格始動ですね。(小池む)

★ たまに麻婆豆腐をつくります。片栗粉を入れてとろみを出すといい具合に仕上がります。この片栗粉が今はジャガイモからつくられていること、そしてカタクリの花が反り返った独特の形をしていることを最近知りました。今(4月初)が花期とのことで急ぎ見に行ってきました。(小国)

★ 前回3月号の編集後記に2月中旬の「季節外れ」の陽気について書いたら、そのあと一転気温が下がり「平年並みかやや遅い」桜の開花となりました。と思ったら今は、再び「季節外れの」真夏日に迫る陽気です。天気は読めません。(黒川)

★ 2018年4月から始まった「森のなかま」の配信担当を、2024年3月をもって卒業いたしました。この5年間、多くの出来事がありましたが、広報の皆様のご支援と会の皆様のおかげで、毎月森のなかまを無事にお届けすることができました。配信文は短いのですが、「森のなかま」を発行する大変さが判り、毎回悩んで配信していましたが、配信係のお蔭で、インストラクターの会活動やその時々のお出来事についても深く考える貴重な経験ができました。「森のなかま」を発行する編集部のみなさまに心より感謝の気持ちでいっぱいです。(笠原)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取り組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

https://twitter.com/kanagawa_sizuku



やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL : 045-412-2255 / FAX : 045-412-2300

<https://ktm.or.jp/> Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

今月号にシリーズ「やま」の色々の掲載はありません。次回は6月号に掲載です。

シリーズ
『やま』の色々

2024年度 森林探訪

自然に親しみながら、森林を中心とした自然に対する理解を深めていただく、
森林インストラクターが案内する自然観察会です。

1. 真鶴半島のお林と磯を訪ねる

真鶴半島で「お林」と呼ばれる豊かな森、火山の溶岩によって形成された景観、海岸の動植物などを観察します。

開催日：2024年5月19日(日) 申込締切：5月11日

集合：JR真鶴駅改札口前 9:00 集合

解散：ケーブル真鶴バス停 14:00 頃

コース：JR真鶴駅バス停→中川一政美術館バス停

→真鶴岬・三ツ石海岸(☒)→ケーブル真鶴バス停(☒) (解散)

→バスで真鶴駅へ 高低差：90m



2. 日向薬師から日向山・七沢温泉へ



行基が開山したという日向薬師と周囲の寺林から続く、
木もれ日の中の道を歩きます。

開催日：2024年11月30日(土) 申込締切：11月22日

集合：小田急伊勢原駅改札前 8:30 集合

解散：七沢温泉入口バス停 15:30 頃

コース：伊勢原駅北口バス停→日向薬師バス停(☒)→日向薬師(☒)

→日向山山頂→亀石→七沢温泉→七沢温泉入口バス停(☒) (解散)

バスで本厚木駅へ 高低差：330m

3. 冬の多摩丘陵 黒川谷ツ公園・よこやまの道を歩く

多摩丘陵に広がる雑木林、湿地、里山を巡り、防人の時代に思いをはせるコースです。陽だまりで一足早い春を探してみましょう。

開催日：2025年1月26日(日) 申込締切：1月18日

集合：小田急多摩線はるひ野駅北口 10:00

解散：黒川駅 15:00 頃

コース：はるひ野駅(☒)→黒川谷ツ公園→はるひ野駅(☒)

→よこやまの道→黒川駅(☒) 高低差：100m



各イベントともに、

定員：50名(申込順) 参加費：1,500円(当日徴収)

持ち物：昼食、飲み物、雨具、シート、ハイキングのできる服装

<申し込み>：認定NPO法人 かながわ森林インストラクターの会 自然観察部会

1) QRコードで

2) e-mail：kanagawa_shizenkansatu@yahoo.co.jp へ

3) 〒243-0018 厚木市中町2-13-14 サンシャインビル604 へ往復はがきで

森林探訪名、参加者全員の氏名・年齢・電話番号・住所を記載してください。

お問い合わせ：TEL 080-8712-3804 担当 西岡

